

自然の保護には金がかかるーディスカバリーベイ狂騒曲 ゴルフカートが2千万円“Crazy” only in Hong Kong

ディスカバリーベイに住んだことのある人は当協会関係者でも少ないと思う。完全に保護された豊かな自然の中に低層の高級集合住宅があり、80年代から開発され快適な住環境なので一度は住みたいところだ。セントラルからフェリーで20分くらいの至近距離だが台風となると交通が途絶する。子供の学校のこともあり、住民は欧米系が中心で、独身の若い人以外の日本人は今でもあまり住んでいないのではないだろうか。先日、香港紙を読んでいて、面白い記事に遭遇した。

ランタオ島など島々の自然保護に香港政府も力を入れている。島内の道路も制限されていたが、ランタオ島の一部を通して空港行きのハイウェイ、高速鉄道もでき、さらにディズニーランドも開園した。それによって、ディスカバリーベイに行くにも、ディズニーへの最寄駅から簡単に行けるものと勘違いしていたが、政府の環境保護政策のお陰で、ディスカバリーベイの交通状況は昔と変わらないようだ。

ディスカバリーベイの住民は現在23,000人で2003年にSiena-One, Twoが完成、2007年にChiantiその隣にAmalfi地区が造成中とのこと。地名をイタリアの名所にしたとは開発業者も洒落ている。

フェリー乗り場の近くにショッピングセンター、レストランなどがあり、他の島々のいかにも香港的な風景とは違ったヨーロッパの海辺の街のような印象がある。道路が制限されているので、バスと配達用のバンが主役となるが、バスの頻度を増やすわけにもゆかず、更に起伏もあるので、結局、住民の足はゴルフカートとなる。

全ての家族、女性がカートが必要としている。インターナショナル・スクールなど子供の送迎に学校の前に200台ものカートが並ぶ日常らしい。開発業者もカートのライセンスを増やすよう政府に要求



上空から見るディスカバリーベイ (提供：香港政府観光局)

しているが、カートの導入過剰は道路の拡張となり、環境との兼ね合いで簡単には増やせない。カート数は目下490台とのことだが、買うにあたって、まずディスカバリーベイの住民であることが絶対条件だが、店やwebでカート探しを広告しても、無駄らしい。

ライセンスを取って買うにしても、最近では2百万香港ドルとのことだ。スタジオ・アパートが同じくらいの値段なので、なんとも馬鹿げている。但し、不動産の高騰と違って、需要と供給の問題なのでカートは値段が上がってもすぐ売れる。運の良い男はカートの値上がりで儲けたケースもあり、電動式で天井にソーラーパネルを付けたヤマハはここではロールスロイスのようなものだ。馬鹿げてはいるがこれ

目次

2012年4月 発行

自然の保護には金がかかるーディスカバリーベイ狂騒曲	1
ET0首席代表サリー・ウォン氏インタビュー	2
お隣に大富豪がいる確率	3
香港人の訪日旅行需要の変遷 (香港人から見た日本の魅力と変化)	4~5
香港貿易発展局からのお知らせ	6
連合会・各協会便り	
連合会：第12回香港フォーラム オプショナルツアー	7
広島：香港フォーラムに参加しました、	
香港で人気の日本食材と日本食	8
東京：第11回総会と新春の集い	8

関西：チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー、	
香港・中国ビジネスセミナー	9
中京：2012年総会・春節セミナー・パーティー	10
九州：春節シンポジウム&パーティー	11
山形：2012年度春節セミナー&パーティー	12
北海道：香港ビジネスセミナー、香港のつどい2012	13
宮城：「2012春節セミナー&パーティー」「羊煮会2011」	
「初めての香港文化教室」を開催	14
沖縄：アジアビジネス・リーガル・シンポジウム開催	15
ハーバープラザからのお知らせ	16

「子供たちも文化交流へ参加、夢あふれる港日関係を」 —香港経済貿易代表部、黄碧兒（サリー・ウォン）新首席代表にインタビュー—

（インタビュアー 麻生雍一郎、 撮影 室田彩）

Q: 香港では今年、行政長官、立法会議員の選挙が行われます。行政トップと立法会の勢力地図の変更は、香港と日本の関係に影響を及ぼさそうですか？

A: 行政長官は前にも交代しましたが、対日関係が変わることはありませんでした。今年、新しい行政長官が生まれ、立法会の構成メンバーが変わっても日本との関係が変わることはないでしょう。日本は香港にとって三番目に大きな貿易パートナーであり、世界第二位の輸入先です。日本から見ると、香港は八番目の貿易パートナーですが、注目すべきは、香港が日本の食品・農産物の最大の輸出市場で、全体の約25%が香港向けへ輸出されている事実です。昨年、日本は津波、原発事故に見舞われましたが、それにもかかわらず香港と日本の貿易額は4%伸びました。食品・農産物については4.8%伸びたのです。

香港からの訪日者数も震災発生直後こそ減少しましたが、その後、回復し、10月以降は前年比プラスとなり、特に11月には前年同月比で20%以上の増加を記録しました。これらのデータは、香港と日本の間には経済、貿易でも観光や人の交流でも安定した関係が築かれていることを示しています。

Q: 観光といえば昨年、香港を訪問した人の数は4200万人に迫り、日本への外国人訪問者数の6倍を超えました。何故人々を香港へ惹きつけていると思いますか？

A: 一言で言えば、東洋と西洋の出会いを色々な形で体験できることでしょう。古い観光資源に新たな価値が加わり、一方で新しい観光資源がたえず作り出されています。最近の例では西九龍にできたICCビル内の展望台「Sky100」。ICCの高さは世界で4番目の約490メートル、フロアは118階までありますが、この建物の100階に設けられたSky100からは香港島、九龍半島をはじめ摩天楼と海と山の織り成す360度のパノラマビューを楽しめます。

伝統的な観光地が新しい付加価値を備えた例としては海洋公園があります。水の都アクア・シティ、熱帯雨林を模したレイン・フォレスト、子供たちの冒険心を満たすスリル・マウンテンなどが新たに生まれ、今年後半には北極と南極の探検行を味わえるポーラー・アドベンチャーも登場します。かつてのカイタック空港跡地にはクルーズターミナルを建設中ですし、奇岩の絶壁が垂直に海にそそり立つなど、興味深い地質を観察できる新界のジオパークも新たな観光スポットです。香港ジオパークは昨年、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されました。現地まで車で行き、景観を楽しみながら散策したり、または船で海から眺めることができます。

エコツアーに関心の強い日本人にはトレイル歩きもいでしょう。香港の山野には蝶だけでも数百種類が生息しており、トレイルごとに違う生態系や地層、植生を楽しめます。

Q: 首席代表として赴任されてから半年余り。この間になりますが、日本のどんなところへ行かれましたか？訪問地の印象は？

A: 福岡、長崎、札幌、大阪、横浜などを回りました。どの地域でも香港への強い興味と関心を感じました。観光やビ



日本の各地を回りたい、と熱心に語る黄碧兒首席代表（右）

ジネス、また食材や食の魅力から香港を訪ねたい、香港進出を通して中国へのビジネスへの足がかりをつかみたい、という方も多いですね。香港と中国について正確な情報を得たいと願っている方々が多いので、地方でもビジネス交流の機会を作りたいと考えています。

Q: 今年、計画しておられることは？

A: 先ず、3月に大阪アジア映画祭の特集企画として「香港映画祭」を開催し、6本の香港映画を上映しました。「HONG KONG NIGHT」と銘打ったレセプションも行い、様々な分野の方々をお招きしました。5月には港日関係のさらなる深化のため、大掛かりな企画を実施します。香港貿易発展局の主催によるビジネス・シンポジウムが東京と大阪で予定されているほか、香港経済貿易代表部では東京都との共同企画による文化事業の準備を進めています。これには双方のアーティストだけでなく、子供たちが参加するプログラムもあり、香港のアーティストによる「天天向上」という作品をモチーフにした白地のフィギュアに参加者各自がデザインを施し、それを展示することなどを考えています。芸術、文化の交流が大人の芸術家だけでなく、児童、生徒たちも含めて行われることは、とても意義のあることです。小さいときからお互いの文化や芸術にふれることは双方の理解を深め、交流をより強めることにつながりますから。

Q: それはいいですね。香港の人たちの造形美術はなかなかのものですから。今年の札幌雪祭りの雪像コンテストでも、優勝したのは香港人のチームでした。

A: 香港のチームは札幌で干支にちなんだ、すばらしい龍の雪像を作りました。

Q: 公務とは別にプライベートに考えておられることは？

A: 色々な地域を訪れ、伝統、芸術、文化にふれ、また地方の食を楽しみたい。沖縄も在任中にぜひ訪問したいです。

Q: 最後に日本香港協会の活動へ望まれること、また会員向けのメッセージを。

A: 会員の皆さんが香港でのビジネスなどを通して培った実務的な経験と知識は、新しく参入する人たちに大変役に立ちます。新規の参入者にとっては、よき指導者、よき助言者による指導・助言が大切で、香港ではこうしたメンターシップがとても大事なスキームとして認識されています。日本でも日本香港協会の皆様が豊富な経験を生かして、経験の少ない方や若い参入者向けのメンターとして、ワークショップはもとより、個人ベースでもアドバイスをしていただければと願っています。

（次ページに黄首席代表の経歴）



お隣に大富豪がいる確率

日本香港協会会長 賤前 宏

ポストンコンサルタントによれば不動産と現金などの資産が百万米ドルを超える人の割合はシンガポール15.5%、スイス9.9%、以下カタール、香港となる。(以上は小人口国で、あとは米・日・独・中国などと大人口国が続く)香港では百万米ドル以上の資産家は10万人で、70人に一人は百万ドル長者となる。

香港の不動産は本土の金持ちに狙われ急騰していたが大分落ち着いてきたようだ。もっともこの記事が出るころには本土のバブル崩壊が具現化しているかもしれない。2011年は中国発バブルの影響もあり香港中で市場最高値が現れた。人気のミッドレベルの中古物件は2010年に前年比8.2%アップで1平方フィート当たり14,320香港ドルであったものが2011年には24,829香港ドルと過去最高を記録した。

ピークの元ヤオハン会長の和田さんの家はヴィクトリア港とアバーディーンの両側が見渡せる絶好の立地であった。和田さんは1990年に17億円で購入、96年に60億円で売却といわれているが最近80~90億円でさらに転売されたという。

金持ち所有の土地はとかくあちこちから文句がつけられる。

李嘉誠宅に隣接する土地が彼の庭として政府からリースされることとなった。現在所有の土地と同じような面積だが(11,800sq. ft)なぜこんな土地を貸し出すのか、なぜ売らないのか、売れば政府の財政収入になるのにと早速民主党が噛みついたがそれ以上の騒ぎにはならなかった。なぜなら崖のような急斜面の土地で、雑木林のままにしておくか、巨費を投じて下からコンクリートの柱で支え平面を作るよりほかに利用方法がないからだ。

石澳は香港島の裏側で太平洋に面したところだが、そこに行く途中は英国のウェールズの山と海岸のように荒涼とした風景が広がる。筆者はジャーディンのマーチン・パロウ氏の豪邸に招かれたことがある。なるほどイギリス人はこんな人里離れたところに住みたがるのかと感心したが、その当時から広大な庭のある高級住宅地であった。香港貿易発展局の会長もやったピーター・ウー氏もここに住んでいた。

ところが不動産価格高騰の折から、政府も各戸のゲートが政府所有地に侵出しているので撤去してほしいと要請した。元々道路と敷地が明確に分かれていなかったのが道路に面してゲートが突き出て

いる部分を撤去せよとのことで、大半はゲートを撤去したが、数軒は政府と争うらしい。同じ事例はリパルスベイのマカオのカジノ王、スタンレー・ホー氏の超豪華邸でもあったようだ。

さて本題に戻って、隣に大富豪のいる確率だが、筆者は香港で大富豪どころか世界的に超大金持ちと認知されている人々の隣に住むという経験をした。

偶々香港でディープウォーターベイの社宅に住んでいたが、香港ゴルフクラブの方に道を下がり隣が李嘉誠、その前がSir Y. K. Pao(World Wide Shipping Group創設者で船王と言われた)一族、社宅のすぐ前がSir M. Kadoorie(China Light, Peninsula Hotelなどのオーナー)道路の右上がRobert Kuokの別邸(砂糖をはじめ油脂など食品企業とかシャングリラホテル経営)と大金持ちどころか世界屈指の大豪族が周りに住んでいた。

筆者のような東京に住んでいた当時のサラリーマンは会社を辞めた時に、土地を得るために一生働いたのかと思うほど借金をして家を建てたものだ。そこで海外転勤時にはどうせ東京では広い所に住めないのでは給料をはたいてでも良い家に住みたいとて、ニューヨークの時は新しいマンションの23階に住み、ロンドンの時はウィンブルドン近郊の150坪以上あると思われる一軒家に無理をして住んでいた。ニューヨークから東京に戻った時に手に入れたのが今の家だ。

かつて日経の交友欄にwelcome good bye houseなる記事を書いたことがあるが、外人が来るとwelcomeまでは良いがcome-inと言っていると数歩ですぐ裏口となる、即ちgood-byeだ。そんな人間が香港で大分古い建物だが、前庭・後庭がありプール付の社宅をあてがわれたのだから盆と正月がいつべんに来たようなものだ。場所は香港島の裏側で山の中腹、前は海で下はゴルフクラブとまさに別荘だ。下のゴルフ場でearly bird(早朝ゴルフ)をやっていると李嘉誠さんが前でやっている。もっとも彼はその後と小型ヨットで朝食をとりながらセントラルに出勤となる。

いずれにしても隣に超大富豪のいる確率は香港ではきわめて高い。

蛇足だが、この社宅は筆者の在任中にさらに2089年まで、99年間の土地租借を契約した。一国二制度は2047年までだが、それまでに中国共産党の壁もだいたい崩れるだろう。

黄 碧兒氏(サリー・ウォン; Ms Sally Wong)は香港特別行政区政府駐東京香港経済貿易代表部首席代表に任命され、2011年8月29日に着任した。1981年に香港大学を卒業(専攻:政治経済学)し、1988年には香港中文大学でMBA(経営学修士号)を取得。1981年に香港政府の政務職公務員となった。香港政府で多くの部署やポストを歴任してきた。主なポストは、麻薬取締局局長(反麻薬・マネーロンダリング政策・調整責任者)、司法機構副政務長/終審法院長官補佐官、厚生省事務次官補、広報局副局長、難民事務調整官、および保安省事務次官補など。ウォン氏は既婚で息子が一人いる。



香港人訪日旅行需要の変遷

- 出席者（敬称略）： 谷口せい子（日本政府観光局（JNTO）元香港事務所長）
外岡 宏長（角川マガジンスズ 元HongKong Walker初代編集長）
- 司 会： 平野 純一（日本香港協会広報委員、毎日新聞社エコノミスト編集部）

平野 本日は、日本を訪れる香港の方は、昔と今でどのように変わってきたかについてお話しいただきたいと思います。まずは、お二方のお仕事を教えて下さい。

谷口 日本政府観光局（JNTO）に勤務し、2001年10月から06年4月まで香港事務所長として香港に赴任しました。香港だけでなく、マカオと隣接する中国広東省もカバーしていました。

JNTOは外国からたくさんのお客様に日本に来ていただけるよう日本の観光や文化を世界にアピールすることと、来ていただいたお客様に満足していただけるよう、受け入れ態勢を強化することを行っています。

外岡 角川マガジンスズに勤め、2006年の創刊準備号から2010年まで香港で都市情報誌「HongKong Walker」の発行に携わりました。「HongKong Walker」は発刊当初は香港のタウン情報を掲載していましたが、次第にコンセプトを変え、2010年から香港人に日本の情報を届けるインバウンド雑誌にリニューアルしています。

谷口 香港人の日本への旅行の変化を見ると、一つ目は個人旅行者（FIT）が非常に増えてきたこと、二つ目は高級志向のツアーが増えたこと、三つ目は最近ではレンタカーを利用して日本を回る人も出てきたことです。

旅行者の中でFITの割合は、JNTOの調査によると、05年は60.4%でしたが、2010年は67.2%に増えています。何度かツアーで行って、その土地が一人歩きもOKと感じたら個人旅行に切り換える人が多いようです。

外岡 香港人は海外旅行にどれくらいお金を使うかという調査（2009年、HongKong Walker調べ）では、2000ドル（香港ドル、以下同）では日本へは行けなくて、タイなど他のアジア諸国になります。日本に来るにはやはり4000ドルくらいは必要で、さらに北海道に行こうとすると8000ドルは必要。先程のツアーの高級化ということでしょうか。私たちの誌面もそれを意識してつくるようになりました。

谷口 私が赴任した2001年ごろは、ガイドブックの都市紹介は東京しかありませんでした。しかし、03年ごろから次第に増えて、北海道、関西、沖縄などができました。また東京でも、以前は六本木や原宿などがメインでしたが、代官山、自由が丘などが加わり、最近では下北沢や吉祥寺も出ています。日本人が知らないような情報もたくさん載っていますよね。

欧米系のガイドブックは「ロンリー・プラネット」のように文字による説明がほとんどですが、香港人は、「HongKong Walker」のようにカラフルな方が好きです。

外岡 「HongKong Walker」の読者アンケート（秋季に調査を実施）によると、香港人の日本でいきたい先は北海道がダントツで1位ですね。続いて東京、沖縄の順です。北海道は6月の富良野のラベンダー畑が人気で、必須の撮影ポイントですね。

谷口 日本で訪れたい先は航空路線があるかないかによっても左右されます。私が香港にいた時は沖縄はもう少し順位が下で、代わりに東北がもっと上位でした。当時



左から 平野さん、谷口さん、外岡さん

は香港ドラゴン航空が香港—仙台線を飛ばしていて、仙台のイン・アウトで東北を売り出したからです。

九州はテーマパークを前面に出して売り出し、1985年から人気でしたが、テーマパークはやはり東京ディズニーランド・シーがダントツ人気で、九州は1989年頃から人気落ちてしまいました。しかし、「自然の九州」で売り出すことをアドバイスし、最近は人気も回復してきました。

外岡 九州の方から「なかなか自分ではPRポイントが分からない…」と相談を受けまして、私たちが主導的に編集を進めた九州のガイドブックを出しました。これは完全にFITに特化したもので、地元で人気があるラーメンの情報などは詳細に載せています。

香港人観光客の今と昔ということと言いますと、私たちはJNTOの香港のウェブサイトでVISIT JAPANのお手伝いをしていますが、情報がどんどん細分化されて詳しくなっていくという印象があります。政府機関がつくるウェブサイトであれば、各地方都市の概況や、せいぜいサクラの開花情報など基本情報で足りるはずですが、しかし今や、4月に再登場するお台場の等身大ガンダムや体脂肪計で有名な東京「丸の内 タニタ食堂」の話題まで載せています。

谷口 JNTO香港事務所には、一般の香港の方々から原宿の裏通り「裏原宿」の店の情報の問合せも寄せられるなど、香港の消費者の日本旅行へのニーズは、かなりディープです。

外岡 香港の人口は700万人の都市ですが、08年には55万人も日本を訪れています。97～98年ごろは10万人弱ですので、10年で5倍です。ここ数年はリーマン・ショックや東日本大震災の影響で減っていますが、それでも全人口の10%弱が日本を訪れるというのはすごいですよね。

谷口 2011年の推計は36万5000人です。やはり震災、放射能汚染の影響が大きかったのと、円高も不利に働きました。しかし、香港はリピーター率が訪日外客中最も高く、80%強もあります。リピーター率が高いということは、常に新しいものを提供しないと飽きられてしまうということです。

平野 その他には、どのような変化が見られるでしょうか。

谷口 冒頭にお話ししたツアーの高級化ということでは、04年ごろからビジネスクラスを使い、4泊5日で30万円くらいする高級グルメツアーを複数の会社が売り出し始め、完売が続くほど人気です。普通の4泊5日ツアーは9万円～

～香港人から見た日本の魅力と変化～



香港人の訪日旅行の変化を話し合う3人

10万円前後です。それまでにも、「料理の鉄人」にも出演していた料理評論家の蔡瀾(チャイ・ラン)氏と一緒に、特定の固定客を対象にした人気グルメツアーがありましたね。普通のツアーだと昼食は1000円、夕食1500円程度ですが、高級ツアーだと昼食5000円、夕食1万円くらいで設定するものもある。人気なのはカニ、アワビ、神戸牛、そして香港の方々が大好きなジューシーな日本の果物など、日本に行かないと食べられない、日本ならではの食材と料理です。

外岡 果物といえば、イチゴは福岡の「あまおう」や白桃などは香港でも人気があります。香港人は日本で食べて味を覚えて帰るので、香港でも人気が出るんですね。また、日本のラーメン店も、以前は「味千ラーメン」くらいでしたが、現在は、日本各地で名店と呼ばれる人気のラーメン屋も店主が直接乗り込んで味勝負で頑張っています。香港人も舌が肥えてきたので味は本物です。香港の昼食は400～500円程度ですが、日本のラーメンはやはり1000円はする。でも、2倍出しても食べたい香港人はたくさんいるんです。

谷口 食は観光旅行の大きなファクターで、デスティネーションとして沖縄が人気が出た後は、やはり香港でも沖縄料理店が増えました。沖縄料理の「えん」は香港でも人気です。

また、日本のもので人気があるのはスイーツです。香港のスイーツは、かつてはあまりおしゃれとはいえませんが、今は日本を真似てかなり洗練されてきています。特に女性が、自由が丘や代官山で香港でも知られるようになった日本の有名パティシエの店に行き、味を好きになってくださるんですね。

外岡 ケーキはその都市の発展を知る一つの指標になりますね。私たちの誌面でも、日本のスイーツに関する情報はかなり増えて、かつ詳細に載せるようになりました。

谷口 日本の和菓子も人気が出ています。和菓子は一つずつの包装もきれいで、旅行帰りのお土産に渡すのもちょうどいい。以前は和菓子のアンコは甘過ぎるといふ声も聞かれましたが、最近はそうでもないようです。

外岡 香港にも日本と同じように「お土産文化」がありますからね。最近人気が高いのは、群馬県高崎市の「ガトーフェスタ・ハラダ」のラスクです。この商品はオシャレなパッケージで安くて、一袋に2枚と、この手軽さが受けているようです。ここまで知っているのですから、情報レベルがすごい。

谷口 現地に行かないと買えないものが香港人には人気です。たとえば、北海道の「白い恋人」は有名ですが、香港でもそごうやユニーで買えるようになると、逆にありが

たみがなくなりました。そこで石屋製菓は、北海道の工場に来てもらえば、その人たちの写真を撮ってラベルにして缶に張り付け、「オリジナル白い恋人」をつくるという商品を作りました。特にカップルには人気ですね。記念にもなります。

平野 なるほど皆さんいろいろと工夫されていますね。

外岡 私が知っている30代の香港女性は、青森にリンゴの木を買ったという人がいます。「マイ・リンゴの木」ですね。栽培は地元の農家にお願ひし、収穫の時に日本に旅行へ来るのです。昨年家族と一緒に来ました。香港人は日本の甘くおいしいリンゴが大好きです。

香川県のベネッセアートサイト直島なども人気ですね。変わった美術館で写真を撮って、それをすぐにfacebookへアップする。本当に記念写真が好きです。

谷口 このような新しい情報を仕入れるのは常に女性ですね。ヨーロッパのブランドもののニュー・アライバルが売り出されるのはアジアではまず東京なので、女性には魅力ある国に映るのだと思います。

外岡 実際に「東京ウォーカー」よりも「HongKong Walker」はより女性を意識して編集しています。東京が4対6で4が女性ですが、香港は7対3、特集によっては8対2で女性向けの情報をピックアップしています。

谷口 最後に、三つ目の変化のレンタカーについて少しお話しすると、北海道や沖縄の個人向けパッケージツアーに出てきています。2004年に初めて、全日空香港支店が自社のFITパッケージ「ANAスカイホリデー」の北海道版にレンタカーを入れて成功しました。雪のない6～10月の限定でしたが、初年度で500人、05年には1000人の利用がありました。従来のパッケージツアーはエアー&ホテルでしたが、それがエアー&レール&ホテルになり、今はレンタカーまで広がったわけです。それくらい日本の旅行に幅が出てきました。シンガポールも車が同じ左側通行なので同様のことを始めて人気が出始めています。

外岡 まだ場所は北海道と沖縄くらいに限定されていますが、香港は狭くて駐車場代が高くマイカーを持てる人も少ないので、日本で運転をしてみたいという需要もあるようです。

平野 お二方とも長く香港で日本の観光振興のお仕事をされていますが、やはりご苦労も多かったですか。

谷口 香港でいい仕事をするには、人間関係をきちんと作らないとダメです。キーパソンに一度会って資料を受け取ってもらえる程度では覚えてもらえません。その後も電話を入れるなど何度もフォローアップすることが重要です。これは香港に限らず中国系のビジネスはみな同じですね。

外岡 答えをきちんと持っていけないと相手にしてもらえないですね。具体的にどのようなビジネスができるのかの説明ができないとダメだし、香港の人は決定権のない人と会うのは時間の無駄だと考えている。日本でこれを一番心得ているのはやはり東京ディズニーリゾートですね。

谷口 日本人が10人で行って、ランチプレゼンテーションを1回やるくらいでは相手に何の印象も残らない。10人が1回行くより、1人が10回行った方がずっと効果的です。観光や旅行業に限らず、顔をつなぐことが香港ビジネスでは極めて重要だと思います。



香港貿易發展局 2012/13 香港貿易發展局主催 展示会カレンダー

会場 **H** 香港コンベンション&エキシビジョン・センター(Hong Kong Convention & Exhibition Center)
A アジア・ワールド・エキスポ(Asia World Expo)

2012年	日程	展示会名称	会場
4月	6~9	香港インターナショナル・ライティング・フェア(春)	H
	13~16	香港エレクトロニクス・フェア(春)	H
	13~16	インターナショナルICTエキスポ	H
	20~23	香港インターナショナル・ホームテキスタイル・フェア	H
	20~23	香港ハウスウェア・フェア	H
	27~30	香港ギフト&プレミアム・フェア	H
	27~30	香港国際印刷・包装展	A
5月	7~9	香港国際医療機器&医薬用品フェア	H
7月	3~6	香港ファッション・ウィーク春/夏	H
	18~24	香港ブック・フェア	H
	20~22	ベター・リビング・エキスポ	H
8月	16~18	香港インターナショナル・ティー・フェア/香港国際茶展	H
	16~18	漢方博覧会 現代漢方&ヘルスケア製品展・国際会議	H
	16~20	フード・エキスポ	H
9月	5~9	香港ウォッチ&クロック・フェア	H
10月	13~16	香港エレクトロニクス・フェア(秋)	H
	13~16	エレクトロニックアジア	H
	27~29	香港国際建築資材・装飾資材・機械設備展	A
	27~30	エコ・エキスポ・アジア環境保護関連国際見本市	A
	27~30	香港インターナショナル・ライティング・フェア(秋)	H
	28~30	スポーツ用品フェア・アジア	A
11月	7~9	香港オプティカル・フェア	H
	8~10	香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア/香港国際美酒展	H
12月	4~5	香港フォーラム	香港
	6~8	世界中小企業エキスポ	H
	6~8	イノベーション・デザイン&テクノロジー・エキスポ	H
2013年	日程	展示会名称	会場
1月	7~9	香港国際ライセンスショー	H
	7~10	香港玩具&ゲームフェア	H
	7~10	香港国際文具フェア	H
	7~10	香港ベビー用品フェア	H
	14~17	香港ファッション・ウィーク秋/冬	H
	14~17	ワールド・ブティック香港	H
	中旬	アジア・ファイナンシャル・フォーラム	H
	31~2/3	教育&職業エキスポ	H
3月	5~9	香港インターナショナル・ジュエリーショー	H
	下旬	エンターテインメント・エキスポ香港	H
	下旬	香港フィルマート	H

日程は2012年3月1日現在の情報です
 上記イベントは中止・日程変更になる場合がございます
 最新情報は香港貿易發展局の日本語公式サイトよりご確認ください

香港貿易發展局 英・中文サイト: www.hktdc.com/ 日本語サイト: www.hktdc.com/japan

東京事務所: 〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
 TEL: 03-5210-5850 FAX: 03-5210-5860 e-mail: tokyo.office@hktdc.org
 大阪事務所: 〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビル10階
 TEL: 06-4705-7030 FAX: 06-4705-7015 e-mail: osaka.office@hktdc.org

The 12th Hong Kong Forumと惠州・深圳サイドトリップに参加して

関西日本香港協会理事 華人経済・経営研究部主任研究員
 榎貿易人 代表取締役 馬場正修

関西日本香港協会が主催して始まったChinese Management & Marketing School (CMMS)は、今は全国連合会が主催して東京と大阪でインターネットにより教室をつないで開催されている。このSchoolでは、毎年11月末に開催されるHong Kong Forumに参加するツアーを企画してきた。私は第2期の修了生であるが、2005年の3期のときに初めてこのツアーに参加した。このツアーは、香港華南について知見を広めることを目的としていたので、このフォーラムへの参加だけでなく、中山、東莞、深圳、広州などへの小旅行も企画し、香港や深圳和僑会との交流や工場見学、Bonds Group総裁のAnson Chan氏邸訪問なども含めた多彩な企画であった。畢竟、フォーラムの種々のプログラムへの参加は疎かになる。そうするうちに日本からの参加者は、セレモニーやパーティーに参加するだけで肝心のプログラムに参加しないという批判が聞こえてきた。

そこでここ3年は、心を入れ替えて小旅行はやめて各種のプログラムに積極的に参加することにした。慣れない英語の世界で緊張もし疲れるが、色々なプログラムとそこでスピーチをする著名な経済人の人選は、周到な吟味がなされたレベルの高いものであること、また、それは、香港の変化を見極める貴重な機会でもあることに気付いた。そこで、華人とのビジネスでは、「関係(GUANXI)」が何よりも大切であることは、CMMSで学んでいるので、壇上に上がった経済人と積極的に名刺交換を心がけるようになった。

因みに昨年のThe 12th Hong Kong Forum初日のワークショップ「中国本土における円滑な事業運営」では、香港工業総会のDr. Roy CP Chungと兆豊科技設備有限公司Mr. Steve S. F. Wongのスピーチが印象的であった。両氏が共通してその秘訣として「我々にはGUANXIがある」と言明したのである。このとき、「Art of Relationship」などという英語表現はなく、「GUANXI」と直接表現されたので、欧米や日本人たちがどれだけ理解できたか疑問だが。

フォーラムは2日間と限られているので、せつかく400人ものが集まった世界大会でも交流には限界がある。GUANXIはそう簡単には作れないのである。一歩進んだ交流ができないものかとの思いが募ったので、今回はフォーラム後のサイドトリップに参加して見ることにした。昨年は、第十二次五ヶ年計画の初年であり、計画に初めて香港とマカオに関する章立てが独立して設けられた記念すべき年であった。その影響と香港の対中戦略の真意を探りたいとの想いもあった。今回は、12月1日～2日の惠州・深圳への旅である。驚いたことに今回は日本からの参加者は私1人。東京の小溝氏が参加できないと言うことで、日本を代表してしっかりやれとの激励もあり、甚だ緊張した旅となった。



香港フォーラム、オプションプログラムへの参加者

約50名からなる「環球香港商業協會聯盟考察團」は、香港貿易發展局から国際推廣總監 徐耀霖(William Chui)氏、Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide LimitedのChairman Georges Legros氏、Vice Chairman Jenny Wallis氏等の引率による正式訪中団であった。初日は、惠州市人民政府主催の歓迎昼食会、惠州仲恺(国家級)高新技术産業開発区の紹介、TCLの液晶TV工場、Gold Peak Group金山電子有限公司 音響製品工場を見学、二日目は、早朝から惠州西湖公園を視察後、深圳市人民政府主催の歓迎昼食会、午後は、「五ヶ年計画」にも明記された深圳前海深港現代服務業合作区を視察。広東省は労働集約的な軽工業からハイテク・サービス分野への産業構造の転換をリードする地域だが、もう香港周辺では土地の確保は難しく思うていたが、業種によってはまだまだ可能性があることが判った。

深圳前海深港現代服務業合作区は、現代サービス業の香港・広東省協働一大模範区と位置付けられており、2020年完成を目指して建設が進んでいる。15平方キロの広大な土地の埋立て整地工事の最中であった。金融・サービス分野で香港が持つノウハウを大陸部に導入しようとの試みで、将来は香港国際空港から15分で来られるようになるというので驚いた。

参加メンバーとの交流も楽しかった。特に華人が元気で明るいのが印象的で、移動中や2回のCasual Dinnerでの交流が、これまでにない経験となった。帰国後、この時に知り合ったVancouverのWing Wing Co. Limited(榮榮臘腸有限公司)のMr. Rod Fongから自社が生産しているチャイニーズ・ソーセージを日本向けに輸出したいので顧客を紹介して欲しいとのメールが入った。Dinnerで一緒にしたときに出たソーセージが美味しく、「これは当社で生産しているものと同じ味だ」と言われたのがきっかけだ。今、以前CMMSでも講義をいただいたことのある神戸華僑総会会長の(株)廣記商行代表取締役鮑悦初氏に紹介している。近くFong氏が神戸に来るというので楽しみにしている。サイドトリップはビジネス交流のチャンスを掴める機会とも言えるだろう。

HIROSHIMA

広島日本香港協会

広島日本香港協会

香港フォーラムに参加しました

広島日本香港協会は、昨年11月29日・30日に香港で行われた「香港フォーラム」に19名で参加致しました。

香港の最新情報の収集と、世界各国の参加者とのネットワーキングが主たる目的の当フォーラムは、日本から参加した会員のみならず、世界中の会員と交流することができる絶好の機会でした。様々な業種の人々が「香港」というキーワードで世界各国から集し、情報の共有や交流を深めることで、新たなビジネスが生まれる可能性が大いにあることを実感した2日間でした。

2日目の表彰式では、広島は昨年比会員数10%以上増加したということで、「パーセンテージ・インクリース・アワード」を受賞しました。これからも、1社でも多くの企業が香港とかわりを持ち、ビジネス面で新たな意義を見出してもらえようような活動をしていきたいと思えます。

香港で人気の日本食材と日本食

滞在中、協会会員有志でCity Super Times Square店の見学に行きました。ここには広島企業の食品が並ぶ陳列棚があり、堂々と多くの商品が並ん

でいました。その他に目立ったのは九州産の生鮮野菜でした。採りたてを運び、新鮮なまま店頭並べることができる空輸体制が整っていることがうかがえました。

協会会員有志の夕食会には、会員企業の紹介で、YOKOZUNA Holdings Limitedの山本浩一社長が参加されました。山本社長は在香港歴25年、九龍油麻地で「横綱日本麺店」を経営されています。この「横綱」は、香港での日本ラーメン店の草分け的存在です。開店してから今までいろんなご苦労もあったようですが、今では昼夜を問わず行列が絶えないラーメン店として、数ある中でも不動の人気があります。一番の人気メニューは九州とんこつラーメンとのことで、メンバー一同順番を待って食し、日本で食べるのと変わらない味を楽しみました。次回同店を訪れるときには、広島の地酒も味わえるかもしれません。



City Superの広島商品



横綱日本麺店

TOKYO

NPO法人日本香港協会

第11回総会と新春の集い



第11回総会の開会挨拶をされる原田理事長

2012年度の第11回総会、並びに新春の集いが3月3日(土)15:00から霞が関ビル35Fの東海大学校友会館にて行われ、事業報告、決算報告、事業計画、予算計画議案、及び新役員人事案が決議され、引き続き行われた臨時理事会にて原田光夫理事長の再任が全会一致で承認されました。また、副理事長として徳久日出一氏、深野靖弘氏が再任され、新たに麻生雍一郎理事、菅沼義夫理事が副理事長に就任されました。

新任の理事は、原義弘氏、小溝文雄氏、狩野哲也氏の3名の方々です。今回の役員人事にて日本香港協会は、監事2名を含め役員32名体制となりました。



新春のつどいで講演される澤田ゆかり氏

日本香港協会は今後ともビジネス、文化並びに広報、それぞれの領域で関係各所と連携を深め、より活性化した活動を展開していきます。

尚、この度若林敬三理事がご退任されました。当協会に対する長年のご支援、ご鞭撻に深く感謝致します。

その後行われた新春の集いでは、第一部として東京外国語大学総合国際学研究院の澤田ゆかり先生による「香港の少子化と社会保障」と題する講演が行われ、少子高齢化による老いゆくアジア、特にリスク社会論の観点から香港における社会福祉、フィリピン、インドネシア等からの人材調達、高齢者貧困、就労リスク等、グローバル化する新たなリスクの社会的共有の受容の大切さについてお話がありました。

また第二部では、懇親会が開かれ賑やかな会員交流ができ有意義な一日となりました。

関西日本香港協会事務局

チャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティー2012



ゲストの方と記念撮影（写真中央：木全会長、中央左：コンドズ・ユスフ氏、中央右：サリー・ウォン氏）

関西日本香港協会では、2012年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティーを2月13日にヒルトン大阪で90名の参加者を得て盛大に開催しました。パーティーには香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の首席代表サリー・ウォン氏、中華人民共和国駐大阪総領事館の副総領事コンドズ・ユスフ氏、経済産業省近畿経済産業局の局長長尾正彦氏ほか、関西経済連合会や中小貿易連盟などの各経済団体の代表の方々に多数参加して頂き、またパーティーの間中、参加者の皆さんが積極的に交流されて大変有意義な懇親行事を実施することが出来ました。パーティーは木全千裕会長の挨拶で始まり、長尾正彦局長とサリー・ウォン首席代表が来賓挨拶をされ、コンドズ・ユスフ副総領事が乾杯の音頭をとられました。

サリー・ウォン氏は挨拶の中で、大阪と香港には多くの共通点があり、両者とも国際交流の長い歴史を持ち、経済や貿易の一大中心地として栄えており、今後とも緊密な関係を築いていきたいとの抱負を述べられました。また香港と日本との関係に関しては、2011年度の両国間貿易が4%増加したこと、香港を訪れる外国人数で日本が世界第3位であること、香港が日本の農産物輸出相手国で2005年以来世界第1位であること等を説明され、香港と日本の関係が成熟し安定したものになっており今後ますます強まっていくことを確信していると述べられ、中国本土との「経済貿易緊密化協定（CEPA）」と発展を遂げているオフショア人民元業務センターの活用を検討されたら如何ですかと示唆されました。

会食に入りヒルトン大阪の中華料理「王朝」特製の旧正月特別料理を楽しみました。今年のアトラクションは、シャンソン・カンツォーネ・ポップスと幅広いジャンルを歌いこなせる人気急上昇中の実力派シンガー貴志まみさんに、ピアニストで作曲家、イベント企画者としても活躍中の釋恵一氏のピアノ伴奏で「さくらさくら」「こだまでしょうか」「白い想い出」「オー・シャンゼリゼ」「ばら色の人生」「青春の旅立ち」「愛の讃歌」の7曲を歌って頂き、貴志さんの華麗でエレガントな歌謡ショーを楽しみました。今年のラッキードローは、協会理事企業や会員から83点、ほとんどの参加者に当たるたくさん



アトラクションの貴志まみさんと釋恵一さん

の景品が提供され、特別賞のキャセイパシフィック航空提供の香港往復ペアチケットとヒルトン提供の香港コンラッドホテル宿泊券の抽選の際には場内が最高に盛り上がりました。最後に当協会の副会長田中義次氏の閉会の挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。

香港・中国ビジネスセミナー開催

昨年12月14日に帝国ホテル大阪で香港貿易発展局との共同主催による「香港・中国ビジネスセミナー」を開催し、205名の参加者を得て盛会でした。今回のセミナーは、中国民営企業研究の第一人者である黄泰岩氏（中国民営企業中心所長、遼寧大学常務副学長）と中国最大の民営企業である希望集団の副総裁付文革氏をお招きし、中国民営企業の最新動向と華南・香港との関係、日本企業の中国市場攻略のヒントなどについて講演して頂きました。黄泰岩氏は「第十二次五ヵ年計画と華南・香港民営企業の将来像」と題した講演の中で、中国国内市場がグローバル化の進展と過当競争で生産過剰の状態に陥り、中央政府が整理淘汰しているため特に中小企業メーカーの倒産が続出している状況を詳しく説明され、土地や人件費の上昇などもあって厳しい経営環境になっているが、今後進展する都市化と未成熟な民営企業の発展余力もあるので今後20年間は8~9%の経済成長が期待できるので心配いらないと述べられました。

また遅れているサービス産業が今後発展することを指摘されました。付文革氏は「希望集団のグローバル経営と香港の位置付け」と題した講演の中で、希望集団の発展の歴史と経営戦略を解説され、中国と日本企業が協力し合うポテンシャル、補完性が大きいことを強調され、中国のパートナーが日本企業の参入を容易にすると述べられ、日中間の文化の違いは必然的であるが中国はスピード重視で変化の早い市場に対応しているため、チャンスを逃さないことが大事であると強調されました。付氏も遅れているサービス産業分野、特に金融・教育・小売・物流などのビジネスチャンスが大きい点を話され、世界の工場、物作りの中国マーケットが変化し新たな段階に入ったのを実感したセミナーでした。

2012 年総会・春節セミナー・パーティー

中京日本香港協会 副会長・事務局長 佐藤亮一



2012年春節パーティーでの乾杯の音頭

“恭喜發財”中京日本香港協会が設立1990年から22年目を迎え、当協会豊島会長の音頭で2月24日商工会議所を舞台に開幕した。

総会は新事務所開設に伴う事業報告・予算、会計事業計画等、全理事の満場一致にて決議。その後、セミナーに於ける本年のテーマは2題の演目にて参加者の共感、賛同の声が後のパーティー会場にて聞かれた。

まず、最初の演目、香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏による“進化する香港経済観光と中京の可能性”である。即ち中国本土と連携して発展する香港と今後の日中関係をメインに資料の中味・ボリューム感もあり時間の関係上要約ではあったが、卓越した話術の古田講師のお話に傾く出席者の姿が随所に見られた。

そして、次の演目、中部運輸局長甲斐正彰氏による「中部圏の観光推進について」では、中部圏への誘客促進策となる「昇龍道プロジェクト」(別図参照)についての説明があった。プロジェクト名である昇龍道は、能登半島を龍の頭に見立て東海地区から龍が昇るところをイメージしたところから命名された。ちなみに中国で「龍」は縁起が良いシンボルとされ、日中国交回復40周年を基に、辰年に当たる本年を出発点とし、今後中部圏への訪日客数を年々増やすプロジェクトにより景気の上昇に拍車をかけたとの想いが語られた。

セミナー出席者も100名程に及び、2演目ではメモを採る姿が散見された。

午後6時より90名近くの参加者による新年パーティーが催され来賓も駐名古屋中国総領事館総領事張立国御夫妻、名古屋商工会議所会頭及び当協会名誉会長高橋治朗氏の挨拶を賜り、古田首席代表の乾杯により新年の親睦、名刺交換等賑賑しく交歓された。ライオンダンスに始まりアトラクション、モダンバレエに続き、恒例の出席者全員に当たる抽選会が新年会を盛り上げ午後8時盛大に幕

を閉じた。各ゲストに加え香港貿易発展局は勿論会長、各理事、事務局の協力が成功裡に終わられた要因として感謝する次第です。

本年の香港フォーラムの前夜祭にあたる全国交流会では、幹事役を中京日本香港協会が引き受けており、香港貿易発展局、日本香港協会全国連合会等各部門にもご協力をお願いして春節を迎えての報告と致します。

中東圏からのインバウンドを推進

中部運輸局



◆中部圏の外国人延べ宿泊者数は、中国・台湾・香港で全体の50.4%

能登半島を龍の頭に見立て、東海地区から龍が昇るイメージから、「昇龍道」と命名

◆中国等では、「龍」は縁起が良い。

◆平成24年は、辰年であり、日中国交正常化40周年の節目の年。

中部圏への訪日客数を今後3年で倍増

別図 昇龍道 (セミナー資料から)

飛龍 No. 70 2012年4月 発行

(禁無断転載)

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話(03)5210-5901 FAX(03)5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京)

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内 電話(03)5210-5870

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

中京日本香港協会

〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 T.H.錦ビル8階
株式会社喜齋内 電話(050)3620-2517

九州日本香港協会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル
(社)福岡県中小企業経営者協会内 電話(092)451-8593

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒瀬町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内 電話(023)633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内 電話(011)261-4288

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話(022)212-5552

沖縄日本香港協会

〒900-0033 那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内 電話(098)868-3758

広島日本香港協会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内
電話(082)248-1400

URL <http://www.jhks.gr.jp>

春節シンポジウム&パーティー

九州日本香港協会 事務局

九州日本香港協会は香港貿易発展局と共催で「春節シンポジウム&パーティー」を2月13日にグランド・ハイアット・福岡で開催。九州日本香港協会石原進会長の「世界の成長拠点がアジアへと移ってきている。日本はアジアの国。日本の中でも九州はアジアに一番近い。九州の新しい時代が来たという強い認識を持つ」との開会挨拶でシンポジウムをスタートしました。

シンポジウム第一部の「九州経済連合会/香港中華総商会MOU締結報告」では昨年の11月に香港で締結されたMOUについて九州経済連合会松尾新吾会長が「九経連の最重要課題であったアジアとの交流が具体的な形で実現できた。12月には食料品を中心とした香港ミッション団が九州を訪れるなどすぐにその効果も上がっており大変嬉しく思う。この流れを絶やすことなく、もっと大きな流れとしていきたい」と発表。

これに対し香港中華総商会ジョナサン・チョイ会長は「九州は香港や広東に非常に似ている。香港、広東は南シナ海に面し国際的にも色々な形で文化が交流する。九州もそのような場所。また九州は孫文先生の大きな手助けをしてくれた場所でもあり、香港、広東との関係も深かった。こうした基盤があったからこそ、今回のMOUが順調に締結されたと思う。香港は九州の企業の中国進出に大きな役割を果たすと思うし、九州もアジアのビジネスのゲートウェイとなることを願っている」と応え、九州と香港の今後の更なる関係の深化を誓い合いました。

シンポジウム第二部ではHSBCアセット・マネジメント・松田宇充社長より「アジアにおける人民元経済の拡大について」、中国中山大学アジア太平洋学院・濱下武志先生より「東アジア史における九州の役割と今後」のご講演を頂きました。

松田氏はアメリカのドル安政策と最大の外貨準備保有国の中国の関係などから、何故中国が人民元の国際化を急ぐのかをわかりやすく説明。また、「資本の自由な移動がない人民元の国際化はあり得ないとよく言われるが、今や人民元はその存在感、影響力で、資本の自由な移動など関係なく、人民元の国際化が急速に起きている」との説明がありました。

濱下氏は九州と香港、中国、アジアとの関係を歴史的に考察し、「九州はアジアの経済圏で見れば中心的な位置にあり、古くより海をまたいだネットワークでアジアと繋がってきた。経済が大きく変化する時に南と南の繋がりが重要になってくる。南が開けば経済が発展すると言われるが、現在南に比重が移ってきている中で九州の役割を考える必要がある」と語られました。

シンポジウム第三部ではチョイ会長、松田氏、濱下氏に味珍味(香港)有限公司フランキー・ウー会長、大久保勉参議院議員、九州経済産業局瀧本徹局長をパネルに加え、香港貿易発展局古田首席代表をモデレーターとして、「アジアの時代、なぜ九州なのか」をテーマにパネルディスカッションを行いました。九州と香港・中国との関係強化などを中心に多岐に渡る討議がなされ、「九州はアジア経済圏の中心的なところに位置していることを認識しなければならない。今回の九州と香港とのMOUを絶好の機会として、九州が直接、香港、中国と向かい合っていくことを考えていくべきだ」と今後の九州と香港の関係が大きく進展していくことを予感させるパネルディスカッションとなりました。

シンポジウムに引き続き懇親パーティーを開催し、中華人民共和国在福岡総領事館李天然総領事、大久保勉参議院議員、海老井悦子福岡県副知事よりご来賓挨拶を賜りました。ラッキードロー抽選会ではキャセイパシフィック航空様、ホテル日航福岡様、グランド・ハイアット・福岡様より豪華賞品をご提供頂き大いに盛り上がりました。シンポジウムから5時間に及ぶイベントもあつという間に時間が過ぎ、九州日本香港協会・佐々木克副会長の挨拶で盛会のうちに閉会となりました。



開会挨拶
九州日本香港協会 石原会長



MOU締結報告
九州経済連合会 松尾会長



MOU締結報告
香港中華総商会 ジョナサン・チョイ会長



講演：HSBCアセットマネジメント 松田社長
「アジアにおける人民元経済の拡大について」



講演：中国中山大学 濱下先生
「東アジア史における九州の役割と今後」



パネルディスカッション
「アジアの時代、なぜ九州なのか」

YAMAGATA

山形日本香港協会

「2012年度春節セミナー＆パーティー」

山形日本香港協会 副会長兼事務局長 大山康吉



2012春節セミナーでの伊東氏による講演



2012春節パーティーsheenaさんによるミニライブ

2月17日(金)山形テルサにおきまして、豪雪の中、40名の参加者を得て開催することができました。まずセミナー講演会に当たり、冒頭に主催者を代表して当協会の後藤副会長が挨拶。その後、香港貿易発展局東京事務所長サミュエル・チェン氏に来賓のご挨拶をいただき、香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏の当地にはタイムリーな内容でのご講演を頂きました。

「日本食品の輸出先としての香港」という講演テーマは、当地は肉・日本酒・フルーツ・米の一大生産地であり、あまり香港との係わりがなかった農業県が、輸出で大きく飛躍することになるとの内容で聴衆を釘付けにしました。因みに、2010年度農林水産物食品の輸出総額4,920億円のうち、香港が1,210億円で、シェア25%のトップという統計の驚きの結果を知らされました。

また、フードエキスポに対する出展の増加が、どれほど日本食の需要が高まっているかの証拠でもあるように思われました。25都道府県から162の出展企業があり、世界16カ国780社が出展し、1万3千人のバイヤーが参加、一般来場者数は38万人との概要報告があり、日本農水省と香港貿易発展局が日本食品輸出促進のMOU(覚書)を締結しており、益々規模の拡大が見込めるまでになりつつあるということです。

また、山形で忘れてはならないことのひとつは「そば王国」ということです。全国一のそば消費量を誇り、店ごとに個性があり、独特の方法でうまいそばを研究しており、都会のそばとは全く異なる世界があります。日本食で成功していない事例にこの日本そば屋がありますが、香港の友人は山形の田舎そばを絶賛します。この味を香港やアジア・世界に

出せたときがYamagataの食文化ブランドの進行度合いになると思うところです。山形地場産業ブランド化は、地元出身カーデザイナー奥山清行氏によってカロツェリア研究会プロジェクトとして成功裡に終了したばかりで、メゾン・デ・オブジェやミラノサローネなどで山形が世界で注目される機会を得た斬新な県主催のプロジェクトに肖りたい。

第二部に移り、パーティーでは主催者挨拶に続き、県議会議員今井栄喜氏の祝辞、香港貿易発展局東京事務所長サミュエル・チェン氏の乾杯により、会が始まりました。

アトラクションとして地元のボーカリストSheenaさんのミニライブが開催され、その後、ラッキードローもあり、会が盛り上がっていきました。宴たけなわ、大山より謝辞と当協会への更なるご支援を要請し、閉会しました。

今年度は、香港と山形を結ぶキーワード『食』がクローズアップされているので、地元農産物関連の会員の増強や香港フォーラム及びフードエキスポへの参加への相乗効果へ是非繋げて参りたいと思う次第です。



左から伊東氏、今井栄喜県議員、後藤副会長、佐藤理事、サミュエル・チェン氏

「香港ビジネスセミナー」を開催

北海道日本香港協会 事務局

アジアへの販路拡大に取り組む企業の増加を受け、香港ビジネス関係者や関心のある企業の皆様にご参加頂き、



セミナー会場の様子

2月6日(月)、札幌グランドホテルにて、北海道日本香港協会、香港貿易発展局、北洋銀行主催、北海道、札幌市、札幌商工会議所、北海道国際ビジネスセンター、ジェットロ北海道の後援により「香港ビジネスセミナー」を開催致しました。

在香港日本国総領事館/隈丸総領事より「特別来賓」としてスピーチを頂いた他、講演では香港貿易発展局/古田日本首席代表(日本香港協会全国連合会/名誉事務局長)より「アジアと人民元経済圏新時代における香港の新機能～北海道と香港の役割」と題して、中国巨大市場進出に向けた足がかりとしての香港の魅力等をご説明頂きました。また、その後を受けた(株)アブ・アウト/畠中代表取締役会長からは「らーめん山頭火 今昔」と題して、香港への出店経緯や出店時のポイント等をご説明頂きました。

日経、読売、テレビ北海道といったマスコミ各社による取材の他、終了後は講師と参加者が名刺交換/意見交換を行なうなど、有意義なものとなりました。

「香港のつどい2012」を開催

2月6日(月)、今回で7回目となる「香港のつどい2012」を北海道日本香港協会、香港貿易発展局主催、香港政府観光局、北海道、札幌市、北洋銀行のご後援にて、盛大に開催致しました(札幌グランドホテルにて)。

冒頭に主催者を代表して当協会の吉野会長が挨拶。その後、在香港日本国総領事館/隈丸総領事よりスピーチを頂いた他、駐東京香港特別行政区政府経済貿易代表部/サリー・ウォン首席代表、香港政府観光局/加納日本・韓国地区局長よりご挨拶を頂戴した後、中華人民共和国駐札幌領事館/許総領事の乾杯により盛大にスタート。



ご来賓の方々

当日の会場内では、昨年に続き、石屋製菓(株)様より北海道スイーツ、新札幌乳業(株)様よりチーズ等乳製品をご提供いただき、北海道でも大人気の両社の食品は大変好評を得ました。さらに、日本清酒(株)様より日本酒、北海道ワイン(株)から紅白のワインをご提供いただきました。

後半には、男性ボーカルカルテット「ダンディー・フォー」による素敵なハーモニーの披露に続いて、期待のラッキー

ドロ大抽選会では特賞の「札幌－香港往復ペアチケットと香港ペア宿泊券のセット」を、航空券はキャセイパシフィック航空会社様、宿泊券は香港政府観光局様よりご提供頂きました。さらに全日本空輸(株)様、石屋製菓(株)様、日本清酒(株)様、(株)北海道ワイン様、新札幌乳業(株)様、大和交通(株)様、札幌グランドホテル様、香港貿易発展局様、北洋銀行様から多数の賞品をご提供いただきました。特賞は、羨望の眼差しの中キャセイパシフィック航空/日本支社営業本部長/ジェームス・エバンズ様、香港政府観光局/日本・韓国地区局長/加納様より当選者に授与されました。

香港のつどいは例年、札幌の冬の一大イベントであるさっぽろ雪まつりに合わせて、香港との文化交流や相互の観光促進を目的として開催しています。

今年も多くの企業/団体の方々によるご支援のもと、盛況のうちに終えることができました。来年も更に多くの皆様に参加頂けるよう事務局でも取り組んでいきたいと思います。



素敵なハーモニーをご披露いただいた「ダンディー・フォー」のみなさま

宮城日本香港協会 事務局 武田 功

「2012春節セミナー&パーティ」を開催



阿部泰裕氏の講演風景

2月7日(火)「2012春節セミナー&パーティー」をパレスへいあんに於いて開催しました。寒い中、77名もの参加者を得て、盛大に開催することができました。

香港貿易発展局首席代表の古田茂美氏、香港政府観光局日本・韓国局長の加納國雄氏を来賓に迎え、佐々木会長の挨拶で幕を開け、株式会社阿部長商店の代表取締役・阿部泰浩氏による講演「海とともに生きる一震災を乗り越えて」と題して、3.11の東日本大震災で被害を被った会社の復興を如何にして成し遂げたか、DVDを交えながら話ししてくださいました。その力強い行動に参加者から惜しめない拍手が鳴り響いておりました。その後、香港貿易発展局首席代表の古田茂美氏によるお話しがあり、震災に対しての香港貿易発展局の取り組みを紹介、そしていよいよ春節パーティです。小野寺代表理事による挨拶、村井知事からのメッセージを宮城県国際経済・交流課長の千葉隆政氏が紹介、香港政府観光局の加納國雄氏の挨拶も花を添え、みやぎ女将会会長・磯田悠子様のお話による乾杯があって、祝宴となりました。常盤木学園の生徒による楽器演奏やメインイベントのラッキードローもあり、また香港の旧正月とあって、会場には、香港の歌が流れ、赤い提灯等の飾り付けが施される中、中華料理を堪能しながら、香港のお正月気分を満喫することができました。



小野寺代表理事の挨拶とパーティ会場

芋煮会2011を開催

昨年10月29日(土)恒例の芋煮会を茂庭荘で開催しました。

秋晴れのぽかぽか陽気の中、小野寺代表理事の挨拶、油川理事の乾杯で始まりました。

老若男女総勢46名の参加者を得て気温が上昇するにすぎない、ビール・飲料水の空き缶がどんどん積み上がり、用意した分で足りなくなるのではと心配になるほどでした。

お風呂に入る方もおり、皆しばし大震災の事も忘れ、和気あいあいと楽しい会となりました。



参加者とともに芋煮会を楽しまれる小野寺代表

初めての香港文化教室を開催

昨年11月9日(水)第一回目の香港文化教室をパレスへいあんに於いて開催しました。20名の募集で企画したところ、すぐ満席になり、募集を打ち切らなければならぬ程の好評でした。香港出身の荒川フェニー瑞玲さんを講師に、香港のお茶の入れ方を学ぶとともに、入れたお茶を、秋の限定商品マロンケーキとともに味わいました。本場中国のお茶を、広東語も交えたユーモアな語り口で教えてくださった荒川先生、中国茶器ともども味わうことができた参加者も喜んでおりました。



参加者にお茶の手ほどきをされる荒川先生

アジアビジネス・リーガル・シンポジウム開催 「アジアのビジネス展開に必要な法制度の相互理解」

沖縄日本香港協会 事務局



シンポジウム・懇親会

「アジアビジネス・リーガル・インベストメント&トレーディングシンポジウム 沖縄2011 中国・香港・台湾 沖縄」が開催された。このシンポジウムは沖縄日本香港協会(会長: 國場幸一)と沖縄国際架け橋弁護士グループの共催により実現しました。

日本経済は長期の低迷から未だ抜け出せない一方、この中でも中国をはじめとするアジア市場は目覚ましい成長を続けており、魅力的な市場といえます。沖縄は日本の中で限りなくアジア市場に近い地の利があります。しかし、沖縄の企業がアジア市場に進出し成功するためには、アジア諸国のマーケットのみでなく、各国特有のビジネスに関する法制度の相互理解が不可欠となりますので、中国、香港、台湾のビジネス法曹界の専門家である弁護士を招聘し、開催されました。

冒頭、沖縄弁護士会会長大城純市氏は「沖縄の企業がアジアの国々で、もしくは、アジアの企業が沖縄で事業展開する機会が、確実に増えてくる。各国の法律・ビジネスルールを相互に理解すると共に、弁護士のネットワーク作りも重要である。スムーズなビジネス展開の為に、このシンポジウムを活か



各弁護士からの講演

して頂きたい」と挨拶しました。

その後、中国・香港・台湾の弁護士より、直接投資や合弁会社の設立要件、会計報告の仕組み等の説明がありました。

香港のフレッド・カン法律事務所武藤錬太郎氏は「ビジネス拠点としての香港の優位性について」と題して講演した。武藤氏は「香港での会社設立は、比較的簡便であり、香港の会社は中国本土、さらに世界でビジネスを展開するにあたり、広く受け入れられる法人組織となっています。また香港には、国際ビジネスに必要な専門知識を持つ企業家が多く、提携の機会も多くあります。御承知の通り、香港は国際的な金融機関も多くあり、近年は人民元のオフショア決済センターとしても注目されています。このように国際ビジネスの拠点としての香港の優位な点は数多くあります。」と話した。

その後、国際弁護士の藤田雄士氏がコーディネーターとなり、各地域の優位性や独自のビジネスルール等についてシンポジウムを行いました。会場から「中国における労働組合の状況、対応の仕方について教えて頂きたい」との質問に、中国の弁護士であるツァン・ゴー・ホー氏は「中国では労働組合が、強いイメージがあるようだが、そうではない。ほとんどの企業で労使関係は良好である。労働者との情報の共有とコミュニケーションが大切である」などと応えました。

今回のシンポジウムは、アジアのビジネスの中心地である中国・香港・台湾の弁護士が一堂に会し、契約や商取引に関する注意点や各国の違いを理解することができ、有意義なものとなりました。沖縄日本香港協会では、今後もアジア・ビジネスに関する事業を積極的に展開していきます。



中国・香港・台湾の弁護士によるシンポジウム



HARBOUR PLAZA 8 DEGREES

KOWLOON • HONG KONG



スペシャルオファーをご参照ください
www.harbour-plaza.com/hp8d

ホテル賞を受賞

- 驚きの斬新なロビーデザイン
- 702の上品なデザインの客室&スイート
- 屋外のバー&ダイニング
- 大規模な屋内&屋外のマルチファンクションスペース
- ビジネスやレジャー旅行者のための完璧なファシリティ

199 Kowloon City Road, Tokwawan
 Kowloon, Hong Kong
 Tel : (852) 3900 3000 Fax : (852) 3900 3008
 Email : rsvn.hp8d@harbour-plaza.com
www.harbour-plaza.com

A member of Harbour Plaza Hotels and Resorts
 A Hutchison Whampoa and Cheung Kong (Holdings) Company